

ホストタウンNEWS

問合せ／企画課 ☎0296-581511 代表



桜川市は、モンゴル国とブルガリア共和国のホストタウンです。



先月からの市のホストタウンにゆかりのある方を特集しています。

今回はモンゴル国に縁のある多田尚克さん（真壁町桜井地区）に、モンゴルライフル射撃チームの指導者としての経験と、東京2020オリンピックに出場する選手を紹介させていただきます。

多田 尚克さん

1941年生まれのライフル射撃コーチ。2020年にモンゴル国北極星勲章（外国人最高位勲章）受賞。モンゴル国の伝統音楽「馬頭琴コンサート」を市内で開催するなど、モンゴル文化の紹介にも尽力されています。



射撃チームとの出会い

1990年4月、東ドイツワールドカップに参加した私は、散歩中にある一団に出会いました。英語や韓国語で声を掛けましたが、ただにっこりと会釈をするだけでした。

次の日、練習に射撃場へ行くど彼らがいきました。モンゴル射撃チームでした。学生時代に「蒙古放浪歌」を口ずさみ、青春を謳歌した私にとつて、モンゴル国は憧れの国でした。なんとか話をしたいと思いましたが、言葉が通じません。英語を理解できる選手は一人だけでした。

その年の10月に北京で行われた第11回アジア大会では、控え室が隣だったため、お互いを理解するのに十分な時間がありました。その後、たびたび各地の競技会で再会し、モンゴル国を訪問する約束を交わしました。

射撃チームへの指導

1994年春、モンゴル射撃チームへ一週間の技術指導ができるチャンスに恵まれました。ベテラン選手たちは、バルセロナオリンピックで銀メダルを取った実績があり、私のトレーニング方法に興味を示してもらえませんでした。しかし、若い選手たちには目新しく映ったようです。その若い選手たちが現在の指導者です。

コーチとして冬の練習やヨーロッパ遠征を共にして、その成果を確かめる大会が2002年第14回釜山アジア大会、2005年マカオ東アジア大会でした。金メダルの獲



釜山アジア大会にコーチとして参加（前列左）

得は1個でしたが、ウランバートルに戻ってからスポーツ功労賞を受章することができ、忘れられない思い出になりました。

東京2020オリンピックに出場予定の選手たち

モンゴルからも4人の射撃選手が出場予定です。一人目の女子ピストル種目のグンデグマ選手は北京大会の銀メダリストで、世界大会では常に上位に位置しています。もう一人の女子ピストル種目のアヌダリ選手は23歳。最近成績が安定してきました。男子ピストル種目は、サインフリー選手が出場します。女子のライフル種目で唯一参加するエスーゲン選手は、誕生の時からその生い立ちを知る一人です。冬はスキーコーチだったお父さんの指導で、バイアスロン競技の練習をしています。

ピストル選手の多いチームですが、ここ桜川市の射撃場で、最後の仕上げ練習をして大会に臨み、成果を出してくれることを期待しています。

寄付

寄贈

桜川地区交通安全協会（篠原隆会長）から、小中・義務教育学校の児童生徒の交通事故防止に役立ててほしいと、自転車用セーフティライト3千個の寄贈がありました。



稲川教育長にセーフティライトを手渡す篠原会長（右）

桜川市交通安全母の会（小川よし子会長）から、小中・義務教育学校の児童生徒の交通安全啓発に役立ててほしいと、絆創膏3千枚の寄贈がありました。



稲川教育長に絆創膏を手渡す小川会長（右）

寄付

寄贈